

宮子姫像(右)、JR御坊駅(中央)と本願寺日高別院(御坊市)



熊野古道 くもくもと記

46

道成寺縁起で有名なから田辺にかけての地
御坊には、中世に海南域を支配し、紀州最大

車して北西に位置する
道成寺址を目指す。
その前に道成寺に向かう県道に出ると、富子

が根拠地とした龜山城
と小松原館があったと
いう。JR御坊駅を下

り、その縁で紀伊の国
司・紀道成が天皇の命
を受け701年に寺

を創建したという。道

成寺には安珍清姫の伝

記もあるが、「女人開運

を祈るお寺として、縁

起に見られる母の祈り

や南紀らしいのどかな

風土を感じて、火の恋

の清姫より好きなので

姫の石像があった。

道成寺伝によると文

武天皇の妃となった宮

子姫はこの地に生ま

れ、その縁で紀伊の國
が根拠地とした龜山城
と小松原館があったと
いう。JR御坊駅を下

し台となっており、御

坊の街が一望できる。

助力で龜山城に帰るこ

とができた。その厚恩
が残り、林業が繁榮し

ており、登ると見晴ら
敗れた湯川直光は、山
た足跡を残していた。

これには、日高川の水
運ゆえに木材の集荷地

であったことも関係し
ているのだろう。ここ

まで足を延ばすには、
JR御坊駅から「西日
本一短い鉄道」の紀州
鐵道に乗って2・7キロ
離れた西御坊駅で下車
せねばならない。

湯川氏は龜山の頂上
に城と本丸を作り、山
のふもとの現在の湯川
神社付近に居宅・小松
原館を建てた。周辺は
城下町としてにぎわっ
たはずなのに、今のJR
御坊駅付近はビニ

男信春を出家させて住
職にし、証如から祐存
の法名と吉原坊舎の号
を頂いた。1585年

の豊臣秀吉による紀州
征伐で吉原坊舎と龜山
城は焼失。仮堂・蘭坊
が、町の中心地から離
れた龜山山麓に設置さ

れることになった際、
町長が当時の鉄道省に
経て、明治に入つて本
願寺日高別院と称され
るようになつた。御坊
の中心は日高川河口
の浜のあたりに移つて
るようになった。御坊
が地名の由来といわれ
る。それはなぜか知
るうと、紀州鉄道に乗
ばれるようになつたの
が、町の中心地から離
れた龜山山麓に設置さ

す」という作家・有吉
佐和子の添え書きがあ
った。私も同感である。
県道から外れて龜山
の登山口から簡易舗装
された山道を黙々と歩
いて約40分、標高11
7・7mの頂上に着
く。本丸のあった敷地
の中心に「龜山城址」
の石碑が立ち、その奥
に城主だった湯川氏の
供養塔が建てられて
いた。南西側の隅に目を
ると、1528年に授

りを抜けると東町の本
願寺日高別院に出た。
別院を中心に入門前町に
なつていて人通りもあ
る。なぜここに別院が
あるのか。由来板によ
る。別院のある東町は
現在でも土蔵屋敷など

ルハウスや農地が多く
閑散としている。街の中心は日高川河口
の浜のあたりに移つて
いる。それはなぜか知
るうと、紀州鉄道に乗
りを抜けると東町の本
願寺日高別院に出た。

別院を中心に入門前町に
なつていて人通りもあ
る。なぜここに別院が
あるのか。由来板によ
る。別院のある東町は
現在でも土蔵屋敷など

別院中心に発展面影今も

以降門徒を中心に入
りを抜けると東町の本
願寺日高別院に出た。
別院を中心に入門前町に
なつていて人通りもあ
る。なぜここに別院が
あるのか。由来板によ
る。別院のある東町は
現在でも土蔵屋敷など

ゆず盛る土蔵屋敷の
門を開づ

泰華